



令和7年度 富山市立水橋西部小学校

天瀬っ子



学校だより2月

今年度、天瀬っ子は様々な活動に取り組んできました。3学期に入り、いよいよ今年度の終わりが見えできました。天瀬っ子は続けてきた活動への思いをさらに強めたり、自分の成長を感じたりしています。2月は、2つの姿を紹介します。

天瀬っ子みんなで整えてきた学校の環境

2年担任 團野 奏愛

朝、準備を素早く終えて「先生、ごみ拾いに行ってきます」と元気に教室を出発する2年生がいます。最初は1人だったのが、2人、3人と仲間が増えていきました。校庭や天瀬の森でごみ拾いをした後には、「不思議なきのこを見付けたよ」「きれいなお花を見たから教室に飾りたいな」と嬉しそうに教室に戻ってきます。活動する中で、その季節ならではの様々な物を発見するのが楽しいようです。



学校全体に目を向けると様々な学年の子供たちが進んで働いていることに気付きます。寒い中でも毎日欠かさず落ちている松の葉を掃いたり、水やりを続けたりしている環境委員会の5、6年生がいます。6年生の環境委員長は、「松の木の周りを花でいっぱいにしたい」という願いをもって1学期から活動を続けてきました。全校の子供たちもその思いに応え、みんなで花鉢を持ち寄ると、松の木の周りに素敵な花壇ができあがりました。

学校のために進んで働く天瀬っ子たちは立派です。環境を整える活動を続けることで、心あたたまる姿も目にします。下級生に竹ぼうき等の道具の使い方を優しく教える6年生や5年生の姿があります。上級生が下級生を思いやりながら、環境を整えようと温かく指導しています。

これまで学校全体をリードしてくれた6年生の卒業もいよいよ近付いてきました。6年生が学校のために続けてきた活動を引き継ぎ、全校で整えた環境の中で、気持ちよく6年生を送り出したいと思います。

水橋の未来をつくる仲間と

6年担任 上田 清子

6年生は、総合的な学習の時間に「水橋の未来をつくる仲間と」という学習を進めています。「水橋学園で一緒に学ぶ仲間と仲よくしたい」「ごみが落ちていないきれいな水橋にしたい」「楽しい橋祭りについて知ってほしい」など、一人一人自分の願いをもち、自分の活動を進めています。

その中で、水橋西部保育所の子供たちと触れ合いを重ねた子供たちがいます。始めのうちは、小さな仲間とどう接したらよいか戸惑う姿もありましたが、交流を重ねるにつれ、6年生から声をかけたり目線を合わせて遊んだりすることが増えてきました。また、小さな仲間たちに喜んでもらおうと手づくりおもちゃを準備したり、一緒にできる遊びやクイズを考えたりする子供もいました。2学期末の交流の時間の終わりに、保育所の子供たちから、歌や演奏、手紙のプレゼントをもらいました。6年生の子供たちは「保育所の子たちが一生懸命やってくれてうれしかった」と感激し、別れ際笑顔で手を振ったりハイタッチをしたりしていました。交流活動を通して、普段関わる機会のあまりない小さな仲間と関わることの楽しさや、自分がしたことで相手が喜んでくれるうれしさを感じられたようです。



卒業まで2か月を切った子供たちが、水橋の未来を見つめ、自分ができることを考え行動していく姿を支えていきたいと思います。